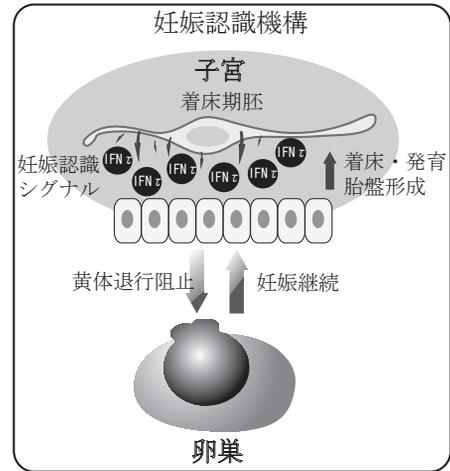


栄養膜細胞の培養技術の確立と共移植による受胎率向上技術の開発

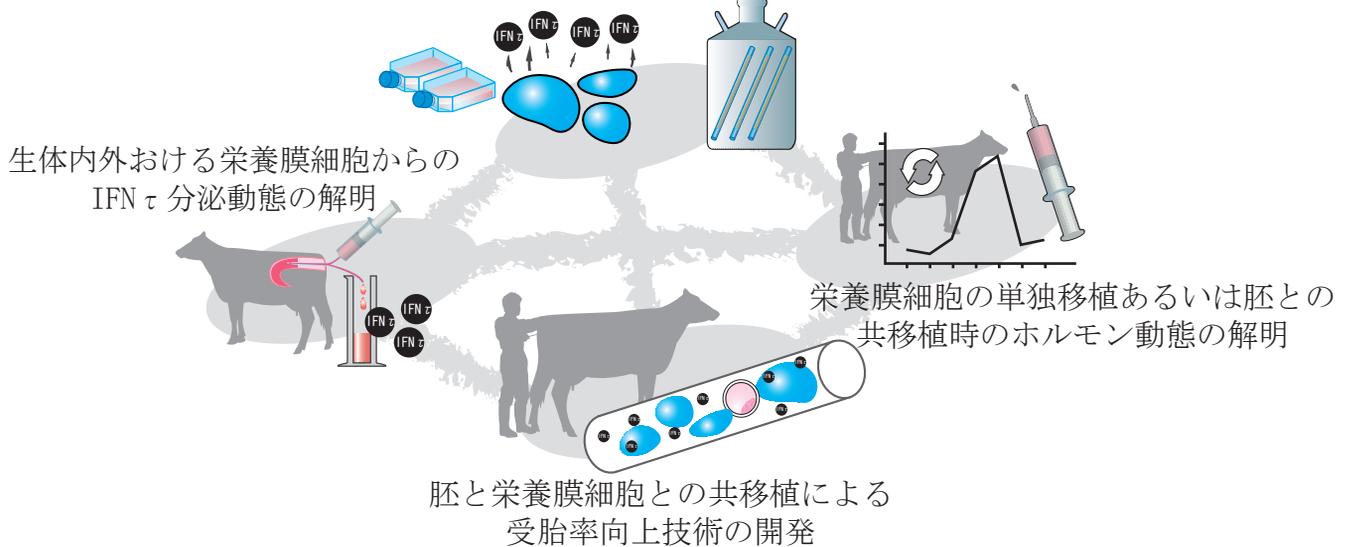
背景

- 胚の栄養膜細胞から分泌されるインターフェロン τ (IFN τ)は、子宮内膜に作用し、PGF 2α 産生を抑制。黄体を維持し、妊娠を継続させる物質。
- ラジオイムノアッセイによる測定系が開発されIFN τ の定量が可能になった。(独)農研機構)
- 栄養膜細胞の継代培養法が開発された。(機能性ペプチド研)
- 低品質胚や体外操作胚はIFN τ の分泌量が不足。



研究項目

栄養膜細胞の培養・供給システムの確立



目的

十分量のIFN τ を分泌する栄養膜細胞の培養・供給システムを確立

この栄養膜細胞を共移植することにより

受精卵移植における受胎率向上

低品質胚の有効利用
体外操作胚の受胎率向上

